

6月20日は「世界難民の日」 JICA 中国で食を通じた難民理解のフェア 開催します

- ✓ フェア期間中、難民の母国の料理を日替わりで提供します。
- ✓ フェア期間中1日、ウクライナの伝統料理「ボルシチ」を提供する日もあります。
- ✓ レストラン前では難民に関するミニ展示を行います。料理と合わせて、難民問題を身近にとらえ、考えるきっかけとなります。
- ✓ レストラン内に募金箱を設置、趣旨にご賛同下さる利用者のお気持ちを、日本国内の難民サポートを行う NPO へ寄付します。

毎年6月20日は「世界難民の日」(World Refugee Day)。難民の保護と援助に対する世界的な関心を高めるため、2000年に制定されました。難民問題は世界の喫緊の課題となっており、残念ながら年々その数は増えています。そして日本にも、これまで1万人以上の難民が逃れてきており、もちろんウクライナ以外の国からの方も多くいらっしゃいますが、その事実はあまり知られていません。

JICA 中国では、誰もが興味を持つ「食」を通じ、難民問題を気軽に知る機会として「難民の故郷の味フェア」を開催します。「世界難民の日」を挟んだ2週間をフェア期間とし、ひろしま国際プラザ内レストラン「ラコルト」のエスニックバイキングメニューのうち毎日1品を、難民を多く輩出している国（過去に輩出していた国を含む）の料理を日替わりで提供します。

身近なことから難民問題を考えるきっかけとなる本フェアを、ぜひご取材ください。

- フェア開催期間： 2022年6月14日（火曜日）～6月27日（月曜日）
- 会場： ひろしま国際プラザ レストラン「ラコルト」（東広島市鏡山 3-3-1）
- 営業時間： 11:30～14:00（ラストオーダー 13:30）
※14:00～16:00 はカフェ営業時間となりますが、「難民の故郷の味」メニューの提供はランチのみとなります。



【難民の母国の味から難民問題を考える“Meal for Refugee (M4R)”について】
母国を追われ、日本にたどり着いた難民のサポートを行う認定NPO法人「難民支援協会（JAR）」が出版した、日本で暮らす難民と共に作ったレシピ本「海を渡った故郷の味 Flavours Without Borders」から始まった取り組み。両親がビルマ出身で日本生まれの難民2世である学生の発案に日本の学生が加わり、難民に対する誤解を解き、楽しみながら理解してもらう活動として、各地の大学の学生食堂で展開、現在では、企業の食堂でも展開。本フェアでも M4R “にのっとったメニューを中心に提供しています。
(過去に難民を輩出していた国のメニューも含まれます)

【本件に関する問い合わせ・申込み先】

JICA 中国 市民参加協力課 担当:新川
TEL:082-421-6305 FAX:082-420-8082 E-mail:jicacice@jica.go.jp

地域から世界へ、世界から地域へ
元気をつなぐ JICA 中国

JICA 中国ウェブサイト

